

クビキリサイクル 青色サヴァンと戯言遣い

▶ 西尾 維新 (著) (講談社)

「戯言」。されごと、古くはたわごとと呼ばれる。ふざけた言葉、世迷い言がうわごとのようなことを指す。この作品では主人公がすごく強い!とかとても賢い!とかそういう人物ではない。ただ、この戯言を使って人を騙し騙され、解決を導き出す。そして深紅の請負人が事件の真相を暴き、本当の終わりを迎える。この作品の特徴は、独特の台詞回しにある。巻を重ねるたびに増えていき、戯言と題するだけのことはあると納得するほどになる。是非一読してみたい。

機械電子工学科3年 黒川 紫温

ソラリス

▶ スタニスワフ・レム (著) (早川書房)

「ファーストコンタクトの困難性」を扱った冷戦期ポーランドの作家、Stanislaw Lemによる屈指の名作です。

理解出来ないこと、未知なるものに対する困惑と恐怖が見事な文章と構成で表現されており、あっという間にソラリスの世界に引き込まれます。

2度ほど映画化もされ、戦闘妖精雪風を初めてする多数の作品に大きな影響を及ぼしたこの一作、SF ファンにもそうでない人にもぜひ読んで欲しいです。

電気情報工学科4年 中野 将生

(harmony/)

▶ 伊藤 計劃 (著) (早川書房)

この物語は今存在する世界の延長に存在するのかもしれない。社会のためにすべての個人は存在している。自分の肉体・精神を傷つける可能性のあるものはすべて排除されている。その中で主人公は世界を揺るがす事件に自殺した親友を感じ事件を追いかける。この本のおもしろい所は文章自体に仕掛けがある所だ。その仕掛けは最後に明らかになるのだが、それに気づいた時にこそ、この本がどういう物が真に理解することができる。ほかにも行きすぎた善意の気持ち悪さを知ることができる。ゼロ年代最高のSF小説をぜひ読んでほしい。

機械工学科5年 松村 侑太郎

学生〈読間〉

物理通になる本

▶ 佐川 峻 (著) (オーエス出版)

僕は最初、物理の授業って何をやるんだろうと疑問に思っていました。そんな時こんな本を見つけたので、借りてみようと思いました。この本には、数式など出さず、身近な出来事から物理を理解できるように書かれていました。だからとても分かりやすかったです。そして、項目ごとに書かれていたので、とても読みやすかったです。例えば物理で熱力学が分からないという人がいれば、この本の項目を見て、熱力学のところを読むと理解できると思います。借りた目的だったことも分かり、それに予習にもなったのでとても良かったです。みなさんも借りてみてください。

1年3組 (ES) 松元 永遠

リーダブルコード

▶ Dustin Boswell, Trevor Foucher (著) (オライリー・ジャパン)

私がこの本を選んだ理由は、ズバリ「きれいなコードが書きたかったため」です。私は最近、半年前に自身が書いた複雑なコードを修正する必要があったのですが、自分が書いたコードだというのに、読むのにとても苦労したため、これではまずいと感じ、この本を読もうと考えました。

内容の細かい説明は省きますが、プログラムに触れる高専生全員に勧められる本です。さし絵などの確に本文の内容を表しており、非常に理解しやすいのですが、それでいて実践的で本当に役に立つテクニックばかりです。

ぜひ皆さん、この本を読んで、きれいなコードを書く技術を身に付けてください。

情報工学科2年 真鍋 悠一郎

プログラマが知るべき97のこと

▶ Kevlin Henney (編) (オライリー・ジャパン)

この本にはタイトル通りプログラミングに関する内容が書かれていますが、実用書というわけではなく、主にプログラミング哲学について書かれたものになっています。コードやプロジェクト自体の品質を上げるための方法や考え方が数多く記載されています。テストの重要性について書かれたものが多いですが、どの内容も非常にためになります。個々のエッセイはウェブでも閲覧できるので、気になるけれど借りるのが面倒な方はそちらもおすすめします。

情報工学科2年 竹田 留偉

漫画 君たちはどう生きるか

▶ 吉野 源三郎 (著) 羽賀 翔一 (漫画) (マガジンハウス)

私がこの本を借りた理由は、テレビで紹介されていて表紙に見覚えがあり気になったからです。原作は約80年前に書かれた児童書だそうです。今回、私が読んだのは漫画化された方で、文庫本も図書館にありました。主人公は中学2年生のコペルくん。日々自分の中の疑問と向き合い、人として成長しようとするコペルくんを時に厳しく、時に優しく導いてくれる叔父さんのお話です。漫画なので読みやすく、時間もかからないのでぜひ読んでみてください。

通信ネットワーク工学科4年 森末 華帆

Another

▶ 綾辻 行人 (著) (角川書店)

今回私がこの本を借りたのは、久しぶりにホラー小説を読みたくなったからです。この小説を私は何度も読み直していますが、飽きるということではなく、読み直せば読み直すほど新たに考えさせられることが増えていきます。

そんなこの本の内容ですが、主人公である少年が転校し、中学校へ行き始め物語が動きだします。何かを隠しているクラスメイト、その秘密を主人公が知った時、彼のクラスで恐ろしい事件が始まります。またこの小説はアニメ化もしており、その話は小説の内容とは違った展開となっている所があるため見比べてみるのもいいかもしれません。

情報工学科4年 後藤 優弥

教員によるエッセイ

文章を批判的に読むこと

情報工学科 谷口 億宇

学問をする上で、文章を読んで理解することは基本中の基本です。しかし、それは非常に難しいことでもあります。「読んで分かった気になっていたが、実は全く分かっていなかった」「文字を追ってるだけで、頭に全く入ってこない」ということはみんなしばしば経験していると思います（私も今でも……）。これから私の考える文章の有効な読み方を紹介したいと思います。それは他人の話を書く時にも役立ちます。学生の皆さんには、これを参考にして、文章や他人の話からより多くを学び取り、自らの成長につなげてもらいたいと思います。

文章を読む際に重要な姿勢は、「批判的に読む」ということです。「批判的」という表現は誤解を招きやすいのですが、あら探しをしたり著者が間違っていると決めつけるという意味ではありません。書いてあることを鵜呑みにせず、正しいかどうかを自ら判断しながら読むという意味です。自ら判断することは、言うは易し行うは難しで、努力と能力が必要です。特に、教科書や論文等で新しい事項を学ぶ際にその姿勢を貫くのは、非常に難しいことです。

私が論文を読む際は、まず著者が最も主張したいことを探りながら読みます。その上で、それぞれの文章が書かれた意図や文同士の論理的なつながりを確認して、意味不明瞭な部分や論理破綻が無いことを確認します。ここで注意することは、まずは著者の主張については肯定的に、論理展開については否定的に読むことです。「我は慈愛に満ちた著者の理解者である。文章は間違いだらけに違いないけどね」という気持ちで読むのがいいと思います。

意味不明瞭な部分や論理の破綻が無いことを確認して、著者の主張を理解したら、今度はその主張の評価です。著者の主張への賛成・反対や価値の高低などを評価し、さらにその評価の根拠も考えます。特に、著者の主張に反対の場合は、その根拠を他人に説明するつもりで論理的に構築しようとしています。そのためにも、著者の主張の論理展開をきちんと確認しておく必要があります。それにより、知識として自分以外の考え方が得られるだけでなく、自分の考え方が明確でより強い根拠を持ったものへと進化します。

これから文章は、上に書いたことに気をつけて読んでみて下さい。まずは、この文章で試してもらうのも良いと思います。もう一度始めから読みなおして、「要するに何が言いたいのだろう?」「論理展開に飛躍は無いか?」「自分はこの考えに賛成か反対か?」「賛成や反対の根拠は?」などと考えながら読むと、同じ文章からも新しい発見があったりするものです。

図書委員長より



本を読む

高松キャンパス 図書委員長
那須 大地



皆さん、読書は好きですか?本が好きな人にとって、読書は娯楽の1つです。しかし、普段あまり本を読まない人にとっては「本を読んで何が楽しいのだろう?」と思うこともあると思います。本を読む理由は人それぞれですが、本を読むメリットは必ずあると思います。そこで今回、本を読むこと、図書館を利用することで得られるメリットをいくつか紹介したいと思います。

1つ目は、「仕事や勉強、レポートに役立つ」ことです。高専では実験や実習が多くあり、レポートなどを書く機会も多いです。そんな時本屋などで毎回参考書を買っているといくらお金があっても足りません。参考書などが多くある図書館は高専生にとって大きなメリットになると思います。

2つ目は、「様々なジャンルの本がある」ことです。図

書館で本を探していると、同じ分野の本や同じ作者の本と出会うことがあります。これはネットで本を探したら絶対に起こらないことです。しかも気軽に開いて内容を確認できますし、もちろん無料なので追加で借りる事もできます。読む本のジャンルを広げるには、図書館ほど適しているものはないと思います。

3つ目は、「期限がある」ことです。なぜ期限があることがメリットになるのかと思う人も多いと思います。私は本屋さんで本を購入したのに、結局読まなかったという事がありました。しかし図書館の本は期限があるから返さなければいけません。返さないといけなくて、期限までに読まないといけません。そして返しに行ったときにまた本を借りることもあるかもしれません。こういった借りる→返す→また借りるというサイクルができることで本を読む習慣を作ることができるのもメリットの一つだと思います。

今あげたことのほかにも図書館を利用すること、本を読むことのメリットはたくさんあります。皆さん、もっと図書館で本を借りて読んで、高専の図書館の予算を増やしましょう!

図書館のすすめ

詫間キャンパス 図書委員長
安藤 樹



本を読むことには様々な良さがあります。一つは、自身の知らないことを知ることができます。SNSやインターネットのニュースなどで最新の情報の触れる機会は多々ありますが、人間の知識欲を満たすことに関しては情報の詰まった本を読むことが最高の手段といえます。また、言葉や表現の引き出しが増えることも本の良さです。本を読み、言葉に触れることでボキャブラリーや表現が豊かになります。特に、高専生は学年が上がるごとにレポートが増えていきます。自身の考察をまとめるためには頭の中にある情報をうまく言語化しなければいけ

ません。そういったときに、本を読む人とそうでない人に差が生まれます。ほかにも本を読むことで得られるものがたくさんあり、高専生生活で役に立つことは多々あると思います。

図書館には様々なジャンルの本が数多くあります。近年、電子書籍の需要が増え、紙媒体の本を読む人が少なくなっているように感じます。しかし、紙媒体の本には電子書籍では感じることでできない良さがあります。本の厚みやにおい、手触りなどを五感で感じるすることができます。また、本の内容がクライマックスに近づくほどページをめくるたびに緊迫感を味わうことができ、見るからに分厚い本を読み終えた後には達成感があります。こういったものを感じることでできる本をぜひ図書館で見つけてみてはどうでしょうか。もしかすると本が自身に変化を与えてくれるかもしれません。

図書館を利用するときはマナーと返却期限に気を付けてください。本を借りられなくなってしまいます。

専攻科生より

「本を読む」ということ

創造工学専攻2年
柴谷 遼太郎



私は、高専本科5年間を修業した後、創造工学専攻科に進みました。専攻科生になると香川高専の図書館でアルバイトをし始めました。アルバイトをし始めた当初はそれほど本に興味がなく、稀に小説を読む程度でした。その後、周りに本がある環境でアルバイトを行っていたせいか、気になる本を手にとって読むようになりました。そのようなことを繰り返している内に、次第に「本を読む」ということについての良さに気付くことができました。

私が「本を読む」という行為を避けていた理由として、インターネットサイトで情報収集を行うほうが手軽かつ自分が必要としている情報をピンポイントで入手できると考えていたからです。「本を読む」という行為は一見、情報収集を行うことには効率が悪いように思えますが、得られる情報の質という点で考えますとインターネッ

トサイトでの情報収集とは比べものにならないと思いました。本を作成した筆者は、読者に自分の思いを伝えるために選りすぐりの言葉で何百ページ、何千ページと本を書きます。そのため、本には質の高い情報が凝縮されており、質の高い情報収集を試みるならば「本を読む」という情報収集が一番効率的ではないかと考えるようになりました。

また、「本を読む」という行為のもう一つの利点として自分が経験したことのないような世界に飛び込めるといえます。自分が物語の主人公となったつもりでドップリと世界観に浸ってみるのも良し。とんでもない偉業を成し遂げた偉人に寄り添ってみるのも良し。他人が行った体験をあたかも自分が経験したように感じるすることができます。そのため一つの物事に対する捉え方も他人のものさしを共有して色々な方面から考えることができます。

近年、デジタル化が進み電子書籍が登場しました。近い将来、紙媒体の本は無くなり、「あの頃は紙媒体の本を読んでたね。」と昔話ができる日は近いのかもしれませんが。何とも言えない本の質感やニオイを体感しながら読書に勤しむのも良いのかもしれませんが。

読む本も読む理由も なんだったってありだ

電子情報通信工学専攻2年
入江 桃子



まず、本を読むのが苦手な方へ。文字を見ると頭が痛くなるし……。本を読む時間ないし……。そういう方はとりあえず俵万智さんの歌集、『サラダ記念日』でも読んでみてください。1ページの文字数約90文字ですよ。ここまでの文章を読んだ方、すでに『サラダ記念日』1ページ分読めています。内容だって、何てことない毎日思ったこと、感じたことを描いたものです。友人からのラインだとか、ツイートだとか、そういうものと変わらない気がしませんか。読書というものはきつともっとずっと気楽でいいのだと思います。

さて、こうして図書館だよりを、この文章を、ここまで読んでいく時点で、きっとあなたは文章を読むことが

結構好きなのだと思います。ですから、本を読みましょうなんて話はやめて、自分語りをさせていただきます。

私は本を読むことが結構好きです。でも忘れっぽいので内容はどんどん忘れますし、難しいことを考えるのは苦手なので、誰かと感想を言い合うこともあまりありません。そもそも読んだ直後でも「ここ好き。ここしんどい」くらいの感想しか言えません。それでも本を読むのはなぜか。多分、人生を楽しむための一節を増やしたいのだと思います。本の内容を忘れてしまっても、心に残る一節というのはたくさんあります。そういう一節は私の人生にふっと現れて心を満たしてくれるはずですよ。

7月6日にはサラダを作りませんか。まっすぐな道を歩くとき、さみしくなりません。45分経ったら「もう駄目です」と区切りをつけてみませんか。地球最後の日には、恐竜を探しに出かけませんか。あなたがこれからたくさんの一節と出会うことを願っています。

参考：サラダ記念日、種田山頭火、銀河鉄道の夜、午後
の恐竜

ブックハンティング紹介

●高松キャンパス

高松キャンパスにおいて、11月22日(木)に宮脇書店総本店(高松市朝日新町)で実施しました。計26名が参加し、約85冊を選書しました。せっかく選んだ本が学校にあって返品となってしまったりは予算が勿体ないので、しっかり学校の蔵書検索をして丁寧に選んでいました。「漢検2級漢字学習ステップ」や「魚のおろし方と料理」という本も選んでおり、学生だけではなく、地域の方々にも喜ばれる本もありそうです。友人と「これだけは絶対にほしい」「この本とこの本だったら、この本を選べば予算内でいける」などと会話をしていたのでしょうか。楽しそうに、時には悩んで、選んでいる姿が印象的でした。

ブックハンティングは年2回実施しておりますが、残念ながら参加出来なかった学生も、皆さんに是非おすすめしたい本やCDがあったら、図書館カウンターまでリクエストをお願いします。(※ご希望に沿えないこともあるかとは思いますが。)

「読書の秋」に続いて、「読書の冬」を楽しんでくださいね。

※文中以外にも、こんな本が選ばれました

- ・「プログラミングRust」
- ・「最高の結果を引き出す質問力」
- ・「消しゴムはんこの教科書」
- ・「発酵の技法」



●説間キャンパス

説間キャンパスにおいて、11月17日(土)に宮脇書店本店(高松市丸亀町)で実施しました。土曜日にもかかわらず、1年生から5年生まで合わせて20名が参加し、約90冊を選書しました。お目当ての本をあっという間に選んでしまう方、じっくり時間をかけて店内を巡る方、様々で、選ばれた本は研究用の専門書、実用書、ベストセラー本、ライトノベル等バラエティに富んでいます。学生の目線から、自分が読みたい、皆に読んでほしいと選ばれた本です。是非図書館で、手にとってみてください。普段本を読まない方にとっても、他の本よりは取っつきやすいのではないのでしょうか。

冬休みはじっくり読書をするチャンスです。どうぞ図書館をたくさんご利用ください。

※こんな本が選ばれました

- ・「図解眠れなくなるほど面白い微分積分」
- ・「C言語と数値計算法」
- ・「電車基礎講座 改訂版」
- ・「下町ロケット ヤタガラス」
- ・「図書館の魔女 鳥の伝言(つてこと)上・下」



編集後記

以前、就職活動を終えた学生たちと話をしていると、「最近読んだ本は何ですか?」「その本の内容を簡潔に述べてください。」「その本から得たことは何ですか?」「他の人に薦めたい本はありますか?」等々、面接官から読書に関する質問を受けたと聞きました。皆さんなら、これらの質問にどのように答えますか?

今日では、「愛読書は何か?」など思想信条に関わる質問は仕事の適性や能力に直接関係がないため、就職試験の採用選考時に配慮すべき項目となっています。しかし、日頃から読書を通して豊かな心を養い、人生観・世界観を広げようとする意識を持つことは、エンジニアとして社会貢献を目指す皆さんにとっても大事なことだと思います。

今年2月に発表された全国大学生協連合会の調査結果では、大学生の1日の読書時間は平均23.6分と3年連続で減少。しかも、読書時間が「ゼロ」の大学生が2004年の調査開始後、初めて5割を超えた(53.1%)そうです。その一方で、1日のスマートフォン利用平均時間は177.3分で、圧倒的に読書時間が負けてしまっている状態です。また、大学生に限らず小中高校生においても、夏休みの定番課題である読書感想文を、実際に本を読むことなく、パソコン上で例文をそのままコピーして提出できるサイトまであります。

今回、夏休みの課題文等で受賞されたどの作品も、忙しい中、時間を上手に作り出し、自身の人生観・世界観の拡充に取り組んだ秀作ばかりです。是非皆さんも、スマートフォンの代わりに本を手に取り、時間に追われる生活リズムから一歩抜け出して、自分を見つめる落ち着いた時を過ごしてみたいはいかがでしょうか。

(高松キャンパス図書館長)